

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 117人

② 算数 117人

5 留意事項

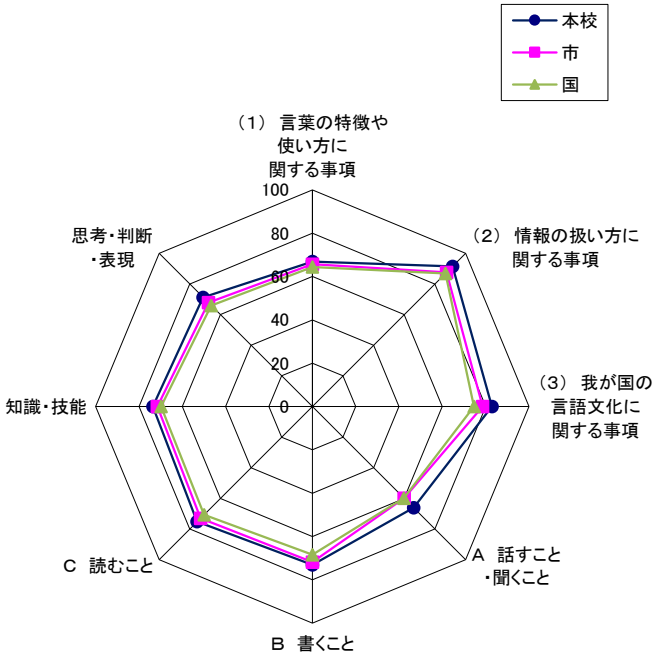
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.9	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	91.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.1	59.9	59.8
	B 書くこと	73.1	71.8	68.4
	C 読むこと	75.2	72.9	70.7
観点	知識・技能	73.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	71.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

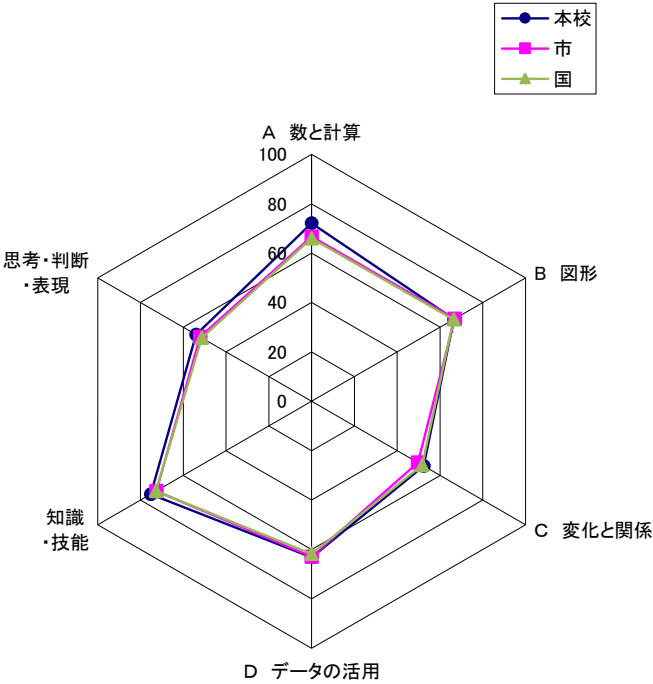
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は66.9%で、全国の平均を2.5ポイント上回っている。 ○話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題では、全国の平均を7.9ポイント上回っている。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題では、全国の平均を5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・各品詞の役割を授業の中で繰り返し押さえていく。また、物語文等を読む際には、主語と述語を意識して音読させ、長文の中での主語と述語の関係を捉えることができるように指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は91.5%で、全国の平均を4.6ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う問題では、全国の平均を4.6ポイント上回っている。	・今後も、自分の考えをメモしたり、整理したりするときに役立つ図の表し方を提示し、使えるように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は82.9%で、全国の平均を8.3ポイント上回っている。 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付く問題では、全国正答率を8.3ポイント上回っている。	・今後も、日頃から読書活動のよさを伝え、読書活動を推進していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は66.1%で、全国の平均を6.3ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題では、全国の平均を9.3ポイント上回っている。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題では、全国の平均を2.7ポイント上回っているが、正答率は55.6%である。	・資料を活用した説明の仕方を発表等で取り入れていく。また、相手の反応を見ながら、説明の仕方を工夫するように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は73.1%で、全国の平均を4.7ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする問題では、全国の平均を5.2ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国の平均を4.1ポイント上回っているが、正答率は60.7%である。	・相手の立場を踏まえて自分の考えを書く活動や、条件に合った内容を書く活動を取り入れていく。また、事実と意見を区別する等、自分の考えが伝わる書き表し方の工夫について、改めて確認していく。
C 読むこと	平均正答率は75.2%で、全国の平均を4.5ポイント上回っている。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える問題では、全国の平均を8.3ポイント上回っている。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題では、全国の平均を1.7ポイント下回っている。	・多様な物語に触れ、人物像や全体像を想像する力を養っていく。また、自分の考えを整理して、その内容を言葉に表せるように、表現の効果を考えさせながら書く活動を増やしていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.1	66.7	66.0
	B 図形	66.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	52.4	49.6	51.7
	D データの活用	63.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	75.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は72.1%で、全国の平均を6.1ポイント上回っている。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、求め方と答えを問う問題では、全国の平均を14ポイント上回っている。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り式に表し、答えを判断する問題では、全国の平均を5.4ポイント上回っているが、本校の正答率は53.8%である。	・日常生活の場面を扱う活動を増やし、数値の関係を言葉や式で表現できるようにする。
B 図形	平均正答率は66.5%で、全国の平均を0.2ポイント上回っている。 ○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係についての理解を問う問題では、全国の平均を3.1ポイント上回っている。 ●角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題では、全国の平均を4.5ポイント下回っている。	・図形の性質を見出す力をさらに育むため、授業の中で図形の観察や構成、図形などの活動を意図的に増やして、図形の見方を考えることができるようにする。 ・問題文を理解しようとする意欲が低いことが見受けられるため、日頃の学習から問題文を丁寧に読み取るよう声掛けする。また、読み取ったことを図に書き込む習慣をつけるよう指導する。
C 変化と関係	平均正答率は52.4%で、全国の平均を0.7ポイント上回っている。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題では、全国の正答率を、4.4ポイント上回っている。 ●速さの意味についての理解をみる問題では、全国の平均を3.7ポイント下回っている。	・速さは日常生活で慣れ親しんだ言葉であるが、「速さ」の学習に抵抗を感じる児童も少なくない。テープ図や数直線を活用して指導することによって、速い・遅いと感覚的な理解から、速さが時間と道のりの異なる2量の割合で表されていることを丁寧におさえ、意味の理解につなげる。また、形式的に公式を暗記し計算するのではなく、速さの意味や比べ方を考えることができるよう、時間か道のりのどちらかをそろえて比べるという単位量あたりの大きさの見方を、しっかりと身に付けさせていく。
D データの活用	平均正答率は63.2%で、全国の平均を1.4ポイント上回っている。 ○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題では、全国の平均を4.5ポイント上回っている。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、記述する問題では、全国の平均を4.7ポイント下回っている。	・表や様々なグラフの特徴やよさに十分にふれさせることによって、生活や学習に活用しようとする態度を養っていく。 ・目的に応じて適切な表やグラフを選んで分析し、その結論について多面的に考察し、互いに伝え合う機会を設けることによって、筋道を立てて考え、説明する力を高めていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、90.7%で、全国の平均を6.6%上回っている。日頃の学習活動や特別活動、児童会活動等で自己肯定感を高める活動をしていることの成果が表れたと考えられる。これからも自分の目標をもち、そこに向け前向きに活動していくことで、自己肯定感を高めていけるようにしていきたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は90.7%で全国の平均を8.8%上回っている。授業の中で、児童が自ら取り組む場面を多く設定することにより、主体的に課題に取り組むことができたと考えられる。引き続き、児童が積極的に課題解決に取り組めるような活動を設定し、支援していきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は87.3%で、全国の平均を6%上回っている。自分で課題を立て主体的に追究したり、最終的な目的に合わせたまとめや発表の仕方を工夫することができるよう目的意識をもたせる活動を行ったりした成果が表れたと考えられる。今後も継続していくようにしたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して、週3回以上と回答した児童の割合が41.5%で、全国の平均を18%下回っている。今後は、有効活用できる機会や課題を増やししながら、児童がICT機器を積極的に活用できるようにしていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で家庭学習の仕方や分量をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスで児童に紹介する。 ・互いの自主学習ノートを見せ合う機会を設けることで、今後の学習の参考になるようにする。 	「学校の授業以外の、平日の学習時間」が1時間以上ある児童の割合は71.2%であった。全国の平均より16.6ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」の質問に、肯定的に回答した割合は60.2%であった。全国の平均より7.4ポイント下回っている。	・学習において有効な場面において、自分の考えを工夫して発表する機会を設ける。	昨年度に引き続き、国語や総合的な学習の時間等で身に付けた資料を用いた話し方や、話の組み立て等の技能を活用する機会を、意図的に取り入れていきたい。